

拝啓 今年も早や8月下旬となりました。お変わりございませんか。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今年も暑い夏でしたが、今年は雨と曇りの日も多かったように思います。近所の公園ではさるすべりの花が青空に向かって元気よく咲いております。

今月は、石館守三先生の文章の 11 回目です。同志会OBの村上劉治さんが編纂された資料「石館守三先生金曜会語録」からの引き続きの引用です。

8月2日と3日は、長野県穂高町で開かれた安曇野夏の集いに参加して来ました。この集会は名古屋聖書研究会の鳥居勇夫・祝子ご夫妻が12年前からご自分の別荘で開かれている会で、毎年日野原重明先生がご出席になり講演をされるので、4年前から参加しています。

3日は、9時から私が「南原繁の生涯に学ぶ一出会いの大切さ」と題して、1時間講演を致しました。パワーポイントを使っていつもと同じ話でしたが、出会いの大切さを強調しました。その後日野原先生が、引き続いて、「Growing Old」という題で、約1時間お話しされました。今年は日野原先生が車椅子になられたため、別荘での講演でした。日野原先生のお話しでも、出会いの時間を大切にすることと、出会いを強調されました。

今回の集会には、学生時代からの信仰の友人下澤悦夫君と、南原先生に最初お会いしたとき一緒に行ってくれた熊新六君と奥様も参加して下さいました。

8月7日から9日までは、独りで鳳凰三山に行きました。このコースは1泊2日で行くのが普通ですがそれを2泊3日で行きました。これは、老年期の山登りの形としては正解であったと思いました。まだまだ山に行けると思い、大切なことは、意志を持って続けることだと思いました。

8月16日から20日までは、岡山、広島、宮島に旅行しました。16、17、18日は、鴨方の妻の両親の家の草とりでした。

19日は、マレーシアの留学生プテリを連れて広島に行き、原爆資料館を見学しました。広島の後、宮島に行き、厳島神社を見学しました。海の上につくられた廊下だけの建物で、神道の空の空を感じました。しかし献金の札が飾られている額を見て、これはキリスト教の二桁ぐらい大きい寄付だという事に感心しました。日本では、仏教、神道がいかに根強いかを物語っているように感じました。

それでは、皆様、これからしばらくは暑さが厳しい時期が続くと思いますが、どうかお身体ご自愛の程、祈り申し上げます。

敬具

平成26年8月25日

山口周三

エンカウターの読者各位